

あらいざわ通信

第90号 2017年12月7日
発行： 荒井沢市民の森愛護会
上荒井沢水辺愛護会
横浜市栄区田谷町 888
発行責任者： 石川 嘉一郎

米作りは自然との闘い

稲刈りと脱穀が終了

10月5日は公田小学校、11日には桂台小学校と信光社による稲刈りが行われました。いずれも天候に恵まれ予定通りの実施です。



稲刈りは田植えと違って鎌を使うので、怪我が心配になりますが、大きな怪我をする子もなく、無事に終了しました。刈った稲を子供たちが木道まで運び出すのですが、それを束ねる作業に追われます。保護者のお母さん方、区役所の女性職員、愛護会の女性会員たちの大奮闘が目を引きました。

作業が終わると後片付けです。使った道具類を洗って泥を落とし、使った足



袋を洗って横に渡した竿に吊るして水を切る仕事には、お母さん方に子供たちが引き上げた後も残って仕上げてくださいました。

さて、肝心の収穫はどうでしょうか。田植えの時にやや小さめとじられた苗は、田んぼに落ち着くと順調に生育し、無事に開花の時期を迎えました。しかし、その後、長雨と日照不足

で穂が出たものの、掌に載せてみても重さを感じず、心配になっていました。

さらに、10月から11月にかけては、土曜日が来ると決まって雨という週が続き、脱穀を予定していた11日も「くもり時々雨」という予報。前日10日に、干してあった稲をすべて倉庫の軒下に移して脱穀は予定どおり実施しました。翌週の土曜日も雨という結果を見ると、強行したのは大英断で、滞りなく脱穀は終了しましたが、籾の量は見た目にも少ないという状態です。

天候という人間の力の及ばない相手との戦いです。“来年こそは”と奮起しましょう。

「脱穀の新兵器登場」

脱穀に新しい道具がお目見えしました。脱穀の時、根元で切れ落ちた穂を、従来は叩いて籾と軸を分離していましたが、金網にこすりつけて籾を落とす仕組み。この道具を使うと手早く確実に作業が進みます。済木さんの考案。



荒井沢で暮らす動物たち



アライグマ

横浜市は、先号の通信でお知らせしました哺乳類調査を7月下旬から10月中旬にかけて実施しました。園内5か所（開始後2か所増設）に自動で作動するカメラを設置して行動する哺乳類を撮影した写真を提供していただきました。

写っていたのは、タヌキ、アライグマ、ハクビシン、タイワンリス、ノウサギ、ネコで、撮影時刻を見ると、タイワンリスを除いて、いずれも夜間から早朝にかけて活動しています。

それではこれらの動物、昼間はどこに潜んでどう過ごしているのでしょうか。気になります。愛護会の活動を、どこかからじっと見ているのでしょうかね。先住動物としての彼らから見れば、私たち人間は侵略者に映るかもしれません。彼らの生活環境のことも意識した活動の必要性を感じました。



ノウサギ

タヌキ



植物観察会その後

6月に北川先生においでいただいて指導を受けた植物観察会のあとを受けて、観察を続けた結果を記します。

➤ サラシナショウマ

炭焼き小屋の斜め前で、先生が「この辺りに



サラシナショウマがありますね」とおっしゃいましたが、「この辺り」どころか、広がりを見せてこの10月に見事に咲いてくれ

ました。

➤ オカトラノオ

展望台の樹木が大きくなり、そのうち1本を伐り倒すことにその場で相談がまとまり、横浜市がそれを実施してくれました。かつてオカトラノオが群生していた場所で、日当たりが改善され、来年はその成果が楽しみです。

➤ ヤマユリ

ホオノキ地区では沢山花を咲かせましたが、折しもの時期に大雨が降り、最盛期には無残に倒れていました。

極楽広場周辺では、期待通りの花を見せ

➤ タコノアシ

絶滅したと思われていたのですが、10月に蛙池で咲いているのが見つかりました。驚喜の声があがったほどでした。もっと良い場所に移植しようかとの意見もあります。



➤ カテンソウ（ニリンソウ群生地） ツルデンダ（ツララの崖）

いずれも横浜市内では絶滅寸前の稀生種（5ページに続く）

今後の活動予定

(平成29年12月～平成30年3月)

- 12月2日(土)当番：草本
散策路と広場の清掃・パトロール
極楽広場北側斜面の笹刈り
畑：里芋・ヤーコンの収穫
- 12月9日(土)当番：坂本
散策路と広場の清掃・パトロール
水路の土砂上げ
畑：玉葱の植付け
- 12月16日(土)当番：佐藤
散策路と広場の清掃・パトロール
草刈り(当日対応)
炭出し・炭材詰め
- 12月23日(土)当番：茨木
散策路と広場の清掃・パトロール
物置・倉庫の整理
新年神事の準備
畑：大根の収穫
- 1月6日(土)当番：本間
散策路と広場の清掃・パトロール
会員の健康と作業の安全祈願
- 1月13日(土)当番：草本
散策路と広場の清掃・パトロール
下草刈り(ホオノキ地区)
散策路の草刈り(ホオノキ地区～展望台)
- 1月20日(土)当番：
散策路と広場の清掃・パトロール
下草刈り(ホオノキ地区)
散策路の草刈り(ホオノキ地区～展望台)
- 1月27日(土)当番：佐藤
散策路と広場の清掃・パトロール
スゲ刈り(スゲの湿地)
- 2月3日(土)当番：茨木
散策路と広場の清掃・パトロール
スゲ刈りと片づけ
草刈り(スゲの湿地周辺)
- 2月10日(土)当番：本間
散策路と広場の清掃・パトロール
草刈り(三日月池周辺)
藁の堆肥づくり(午後)
- 2月17日(土)当番：草本
散策路と広場の清掃・パトロール
- 草刈り(当日対応)
畑：じゃが芋植え付けの準備
- 2月24日(土)当番：坂本
散策路と広場の清掃・パトロール
落ち葉掻き(炭焼き広場北側斜面)
田起こし・畦作り(苗床)
- 3月3日(土)当番：佐藤
散策路と広場の清掃・パトロール
畦塗り・取水口整備(苗床)
草刈り(当日対応)
- 3月10日(土)当番：茨木
散策路と広場の清掃・パトロール
散策路杭打ち・縄張り(ホオノキ地区～展望台)
- 3月17日(土)当番：本間
散策路と広場の清掃・パトロール
散策路杭打ち・縄張り
(展望台～炭焼き広場方面)
- 3月24日(土)当番：草本
散策路と広場の清掃・パトロール
苗床づくり
草刈り(極楽広場と周辺散策路)
落ち葉掻き(炭焼き広場北側斜面)
田起こし・畦作り(苗床)
- 3月3日(土)当番：佐藤
散策路と広場の清掃・パトロール
畦塗り・取水口整備(苗床)
草刈り(当日対応)
- 3月10日(土)当番：茨木
散策路と広場の清掃・パトロール
散策路杭打ち・縄張り(ホオノキ地区～展望台)
- 3月17日(土)当番：本間
散策路と広場の清掃・パトロール
散策路杭打ち・縄張り
(展望台～炭焼き広場方面)
- 3月24日(土)当番：草本
散策路と広場の清掃・パトロール
苗床づくり
草刈り(極楽広場と周辺散策路)

定例作業と公式行事の記録
(平成 29 年 8 月から 11 月)

- 8 月 5 日(土)参加者 18 名
散策路と広場の清掃・パトロール
草刈り(桂台小と会員用水田)
畑: 南瓜の収穫
- 8 月 12 日(土)参加者 16 名
散策路と広場の清掃・パトロール
下草刈り(水路沿い散策路、極楽広場～蛙池)
草の片づけ(水辺)
- 8 月 19 日(土)参加者 17 名
散策路と広場の清掃・パトロール
下草刈り(水路沿い散策路、蛙池～階段下)
- 8 月 26 日(土)参加者 20 名
散策路と広場の清掃・パトロール
草刈り(展望台と周辺)
草刈り(ホオノキ地区～展望台散策路)
草取り(階段)
- 9 月 2 日(土・雨)参加者 8 名
散策路と広場の清掃・パトロール
刈り草の片づけ
稲束用紐づくり(1500 本)
- 9 月 3 日(日)参加者 11 名
畑: 大根・にんじん植付け
- 9 月 9 日(土)参加者 17 名
散策路と広場の清掃・パトロール
笹刈り(水田北側斜面)
草刈り(ヨシの湿地帯)
- 9 月 16 日(土)参加者 18 名
散策路と広場の清掃・パトロール
稲架け組み立て
草刈り(三日月池周辺)
- 9 月 23 日(土)参加者 16 名
散策路と広場の清掃・パトロール
下草刈り(三日月池～炭焼き広場入り口まで水路沿い・散策路)
- 10 月 5 日(木)参加者 14 名
公田小稲刈り(児童 44、先生 4、保護者 2 名、区役所職員 2 名)
- 10 月 7 日(土)参加者 18 名
散策路と広場の清掃・パトロール
笹刈り(水田と水路北側斜面)

- 草刈り(水田・畦・池)
- 10 月 11 日(水)参加者 15 名
桂台小・信光社稲刈り(児童 72、先生 3、保護者 10 名、信光社社員 3 名、区役所職員 3 名)午後、信光社社員による土留め作業(水田沿い)
- 10 月 14 日(土・雨)参加者 9 名
散策路と広場の清掃・パトロール
道具類の整理(倉庫・物置)
- 10 月 21 日(土・雨)作業中止
- 10 月 28 日(土)参加者 14 名
散策路と広場の清掃・パトロール
水辺清掃・ゴミ片づけ
倒木の整理(展望台～炭焼き広場散策路)
- 10 月 31 日(火)参加者 7 名
炭焼き
草刈り(炭焼き広場)
- 11 月 4 日(土)参加者 18 名
散策路と広場の清掃・パトロール
下草刈り(極楽広場周辺)
- 11 月 11 日(土)参加者 18 名
散策路と広場の清掃・パトロール
草刈り(水边上流)
畑: 薩摩芋収穫
- 11 月 25 日(土)参加者 18 名
散策路と広場の清掃・パトロール
下草刈り(水辺下流)
四阿塗装工事準備で内部と周辺片づけ
(来週水曜日工事開始、2 週間ほど)

極楽広場の四阿が化粧直し

12 月初めに極楽広場の四阿(あずまや)の塗装を行いました。

ここは愛護会の本部と言うべき活動の中心になる場所です。会員はここに集まり、ここから作業現場に散って行きます。作業が終わればここに帰って来ます。昼食もここで。

長い間見慣れたこの簡素な建物が、塗りなおして見れば、何となく晴れがましい、気分が新たになるような気がします。

研修日帰り旅行は昇仙峡へ

今年度の研修旅行は、山梨の昇仙峡に出かけました。昨年訪れた韭崎のすぐ近くです。

11月28日、朝8時に本郷地区センター前を出発した参加者は23名。晴れの予報に反してどんより曇った出発でした。そのうえ道路は渋滞。迂回して高速道にあがると、やがて空に青さが徐々に広がり、日差しが戻った中をバスは快調に進みました。出発から約3時間、巨岩が見え始めると昇仙峡のエリアに入ったことを知ります。

静観橋で下車、土産物店が並ぶ通りを抜け、階段を下りると仙娥滝の絶景です。ここで記念写真を撮るのですが、陽があたって明るい滝を背に、狭く暗い日陰に一同が並ぶことで撮影条件が悪く、これは失敗。

そこから溪流沿いに散策が始まりました。残念ながら紅葉の時期は終わっていましたが、見上げる巨岩の下で音をたてて流れ下りる清流に心洗われる思いで、なだらかな下り坂を快適に歩く散策を約1時間で終着地点の駐車場に。

30分走って遅い昼食場所の甲府富士屋ホテルへ。市内でひととき高いビルの最上階、14階のレストランでバイキングを楽しみました。ホテルの前で記念写真を撮ってから帰りのバスに。車中はいつも通り歓談の会場に。解散の7時まで大いに親睦を深めた楽しい一日でした。



(2ページからの続き)

ですが、小さな植物で、周囲の草に隠れて、その後見つからなくなっています。刈り取られる心配のない場所なので、そのうちに姿を見せてくれると期待しています。

➤ マムシソウ

植物観察会とは関係ありませんが、三日月広場から炭焼き広場へ向かう途中に、マムシソウの大きな株がありました。花が終わって大きな実をつけ、秋に赤くなるのを心待ちにしていたところ、根元からバッサリやられてしまいました。来年に期待します。

窯の内部を推しはかりながらの仕事 経験に基づく勘と決断 炭焼き

10月31日、集合時間の朝7時ちょうどに炭焼き広場に着くと、すでに炭焼き小屋から煙が立ち上っていた。2基の窯の、レンガひとつ分の大きさの焚口の前にしゃがんで、薪をくべては団扇で風を送り込んでいる。

窯の奥から垂直にあがる筒が天井に沿って斜めに伸び上がり、その先端から煙を吐き出している。

やがて垂直部分の継ぎ目から茶色に濁った液がにじみ出てくる。



煙突の先端からも液が垂れ落ちる。木酢液だ。それを空き缶に集める。

筒の垂直部分に温度計が取り付けられてあり、木酢液で汚れた温度計の文字盤の硝子を通して透かして見ると、針は80度手前を差している。

「それを100度まで上げるんですよ」と、焚口から声が。

7月に前回は焼いた炭を出したあと、新しい炭材を詰め込んでからレンガを積み上げ、隙間を泥で固めた状態で放置してから火を入れたのが、この日の作業である。

そうこうするうちに、広場では草刈りが始まる。愛護会のメンバーは働き者だ。集まった7名が寸刻も時間を無駄にせずと黙々と立ち働く。窯の前では、温度計を気にしながら、薪を

くべ、煙突の先から出る煙を見上げてその色を探っている。

着火してしばらくは、炭材が含む水分のため、少し黒ずんだ水蒸気のような煙が出るが、やがて青紫色を帯びた煙になる。

一方、温度計の針はなかなか上がらない。二週続けて襲って来た台風で窯が濡れたせいではないかとの憶測も出る。火入れから3時間が経とうとしているころ、薪の消費量も通常の量をだいぶ上回って、煙の色も随分薄くなった。このまま燃やし続けては炭材が灰になってしまうのではないか、と心配の声が出始める。

開けて中を調べるわけにはいかない。すべて経験と勘と推定に頼る仕事だ。温度計は95度に達したまま動かなくなった。10時を過ぎた。

「よしっ、閉めよう」と決断する。焚口にレンガをはめ込む。燃える炎が隙間から見える。4時ごろまでその状態を保ち、煙の色から判断して隙間に泥を詰め、煙突を外して穴をふさぎ、空気の流入を遮断すれば薪の燃焼は止まり、300度ほどの熱で蒸し焼き状態が

続いて炭化が進むという。果たしてどんな炭が出来ているか。窯を開けて炭を出すのは12月16日を予定している。(本間記)

(後日記) 温度計は故障しているようだ。

